

2011 ~ 2012 年度 中期事業計画

- 2013 年度以降の大競争時代に備えた事業基盤の強化と持続可能な成長を目指して -

スカイネットアジア航空株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:伊東 正孝)は、2011 ~ 2012 年度の 2 年間で計画期間とする中期事業計画を策定しましたのでお知らせします。

当社は、2008 年 4 月からスタートした中期事業計画「Challenge2010」に基づき、この 3 年間に於いて九州から沖縄路線(長崎・鹿児島・宮崎・熊本 = 那覇線)や羽田再拡張に伴う新路線(羽田 = 大分線)を順次開設し、合計 9 路線 26 往復へと事業規模を拡大してまいりました。

当社を取り巻く今後の事業環境は、2013 年度にかけて羽田空港再拡張によるビジネスチャンス(第三次発着枠配分)が想定される一方、厳しい経済環境や競争環境等が予想されております。かかる環境下、来るべき航空大競争時代においても持続可能な成長を実現すべく、これからの 2 年間で「事業基盤強化・構造改革推進」の 2 年間で位置づけ、事業計画を策定しております。

当社は、今後とも『九州・沖縄の翼』として、地域の皆様と共に歩み、お客様にいつもご満足いただける航空会社を目指してまいります。

記

1. 基本方針

航空自由化の進展と羽田空港発着枠の拡大の中で想定される厳しい事業環境下においても、「安全を経営の最重要課題とし、持続可能な企業経営と地域社会への貢献を実現」すべく、以下の 3 点を基本方針として事業基盤を強化します。

1. 機材更新を始めとしたオペレーション品質向上で、顧客満足向上を図る
2. 新ブランド/コーポレートアイデンティティ導入を機に、サービス品質と市場認知度の向上を図る
3. 費用構造改革をより一層推進しコスト競争力の向上を図る

2. 事業計画

B737-800 型式機のライン投入と羽田増枠を活用して事業規模を拡大します。

路線便数計画

2010 年度の羽田空港発着枠配分を活用し、羽田発着路線 22 往復 44 便、那覇発着路線 5 往復 10 便、計 27 往復 54 便 / 日とする。

機材計画

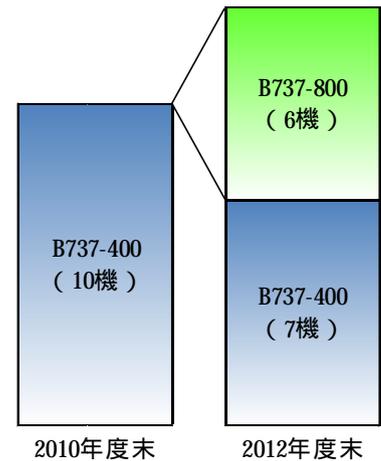
運航品質の向上や 2013 年度以降の路便拡充に向け、機材導入および機材更新を促進する。中期 2 カ年の期間内においては、B737-800 型機(新造機)の新規導入を 6 機・B737-400 型機の退役を 3 機計画する。

< 路線便数計画 >

羽田発着便	2011-2012年度
宮崎	7
熊本	4
長崎	4
鹿児島	4
大分	3
路線計	22往復 (44便)

那覇発着便	2011-2012年度
宮崎	1
熊本	1
長崎	1
鹿児島	2
路線計	5往復 (10便)

< 機材計画 >



< 生産計画 >

B734+B738	2011年度	2012年度
運航計画便数	19,464	19,513
2010年度比	113.2%	113.4%
就航率	99.0%	99.0%
提供座席数	2,984,946	3,143,626
2010年度比	115.2%	121.4%

(比率は2010年度見込み比)

3. 主要施策

品質の向上

1. 機材更新による運航品質・サービス品質の強化
2. 整備控除機・予備機材の計画的確保による就航率・定時性向上
生産性およびコスト構造の改革

1. 生産性の向上と既存事業コスト構造の改革をより一層推進する
2. 事業拠点の集約

コーポレート・アイデンティティ刷新による差別化の推進、商品競争力の強化

1. 新ブランドの導入と浸透
2. 機内販売の再開

4. 財務目標

本中期計画期間末の2012年度には、営業収入310億円、売上高営業利益率3%程度の事業収益を目標としています。

東日本大震災後の当社業績への影響については、今後慎重に見極めた上で、適宜対策を講じてまいります。

以上